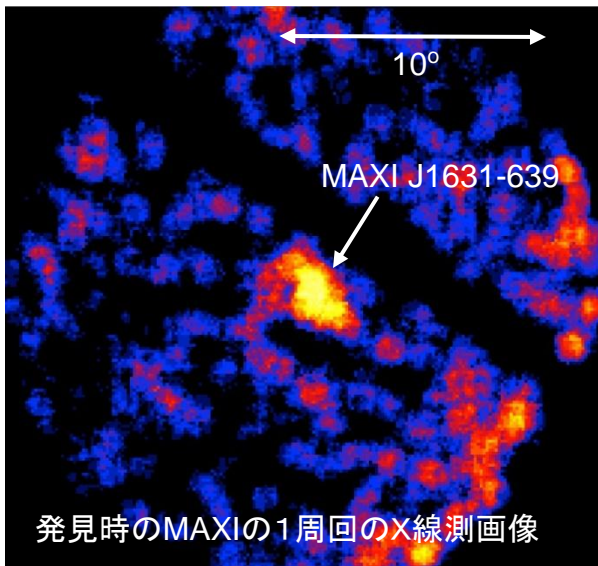


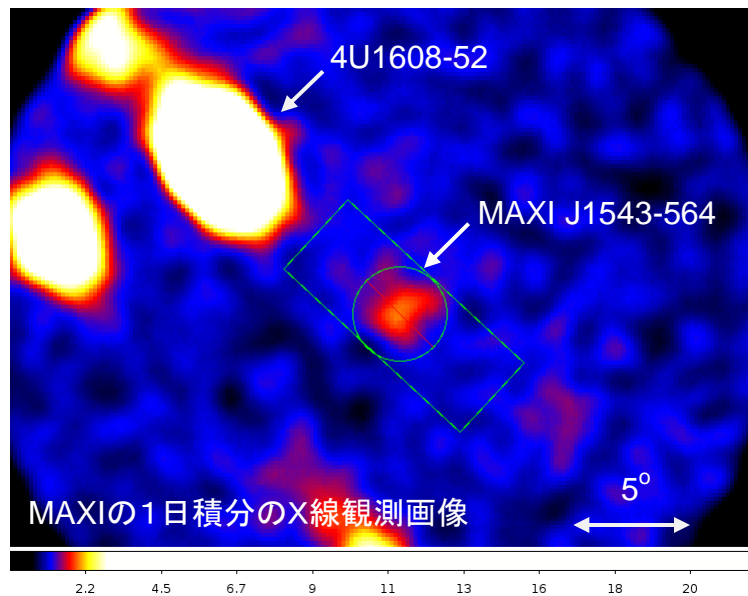
最近MAXIが発見した ガンマ線バーストとX線新星



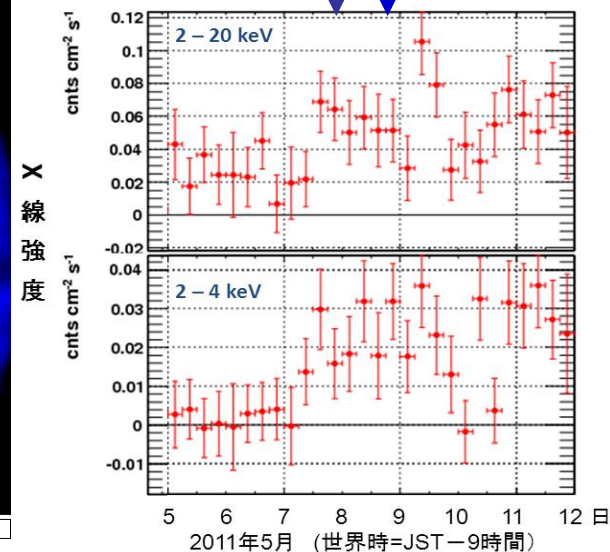
MAXI J1631-639



MAXI J1543-564



MAXI発見・速報
↓
Swift 観測・速報



MAXI は2011年4月29日16:12:38(世界時)にガンマ線バーストとみられる新X線天体を発見([Atel#3316](#))。自動速報は1周回のデータで122 mCrabを得て発行された。赤経=16^h31^m19.2^s, 赤緯= -63°57'00" (2000)。Swift は30日19:04(世界時)に追観測したが、減光する対応天体は見つからなかった。**2つの図に共通: 星の大きさと色はX線強度に対応させた。黒、青、赤、黄、白の順序でX線が強い。**

MAXI「[新星探査システム](#)」は2011年5月8日04:21にX線新星(MAXI J1543-564)を発見。位置を決めて速報([ATel#3330](#))するとともに Swift 衛星に観測を依頼し、そのX線望遠鏡によって確認された。位置: 赤経=15^h43^m17.48^s, 赤緯= -56°24'48.9" (2000)と決定された([ATel#3331](#))。発見当初の強度は20 mCrab(かに星雲の1/50の強度)と弱かったため、1日の積分システムで自動速報が発行された。図にある約400 mCrabの強度をもつ4U1608-52と対照的である。これほど弱いX線新星の発見はこれまでの全天X線監視装置では例がなく、自動発見限界の記録を更新した。これは日本大学根来グループの「X線新星探査システム」の開発が日々向上しているものと評価される。なおこのX線新星はその後、RXTEでも観測され約1Hzの準周期変動も見つかっていて、ブラックホールか中性子星の連星系の特徴とみられ、さらなる観測が進められている。